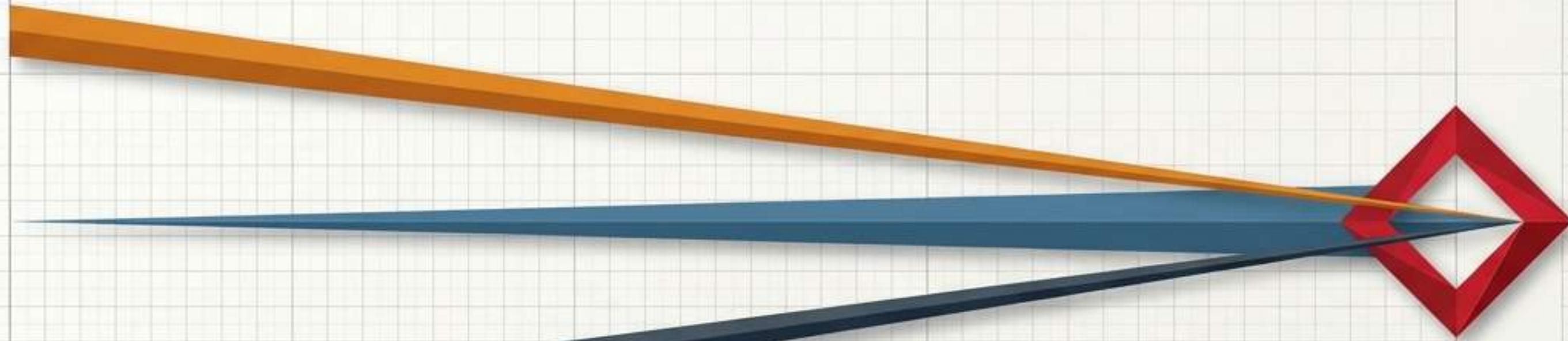


4月末・歴史的転換点へのロードマップ

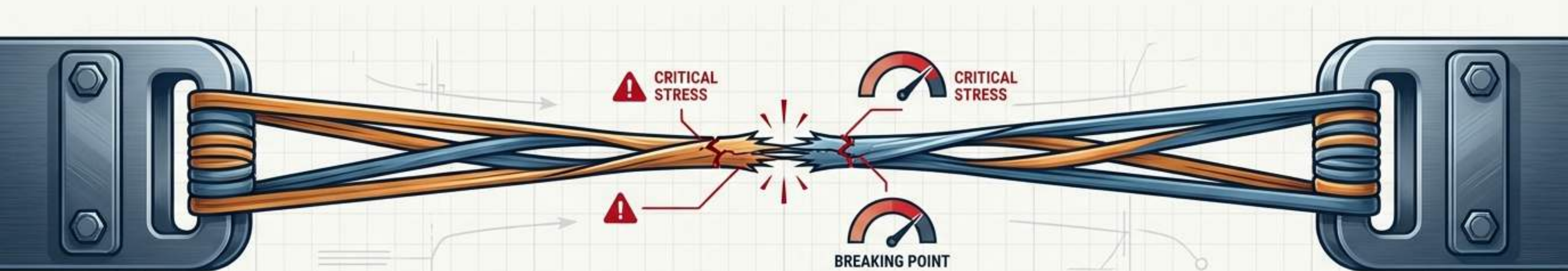
4月末・歴史的転換点へのロードマップ

ユーロ円188円・日経61,000円が引き起こす「極限の円安」と「株価同時調整」の完全解説と戦略設計図



[CONFIDENTIAL / FOR TRADERS ONLY]

相場の現在地：極限まで伸びきったゴム



主導権の変化

現在の相場は「金利」ではなく「エネルギー（原油）」が主導している。



限界点への到達

テクニカル極致（ユーロ円188円）と地政学リスクが4月末に完全に合致。



Xデーの同時反転

「円安のクライマックス」と「株価の本格調整」が同時に弾ける歴史的瞬間が迫る。



究極のターゲット (The Ultimate Targets)



ユーロ円 (EUR/JPY)

2008年最高値を遥かに超える、エネルギー危機に伴う歴史的上限。



ドル円 (USD/JPY)

2024年の政府防衛線(161.7円)を突破したオーバーシュート地点。



日経平均 (Nikkei 225)

未知の領域。市場の熱狂が到達する究極のクライマックス。

【WHY】ユーロ円188円への道（相場のメインエンジン）



[WHY] 日銀が利上げしても、ドル円が「下がれない」理由

最後の磁石（防衛線）：161.7円～162.7円

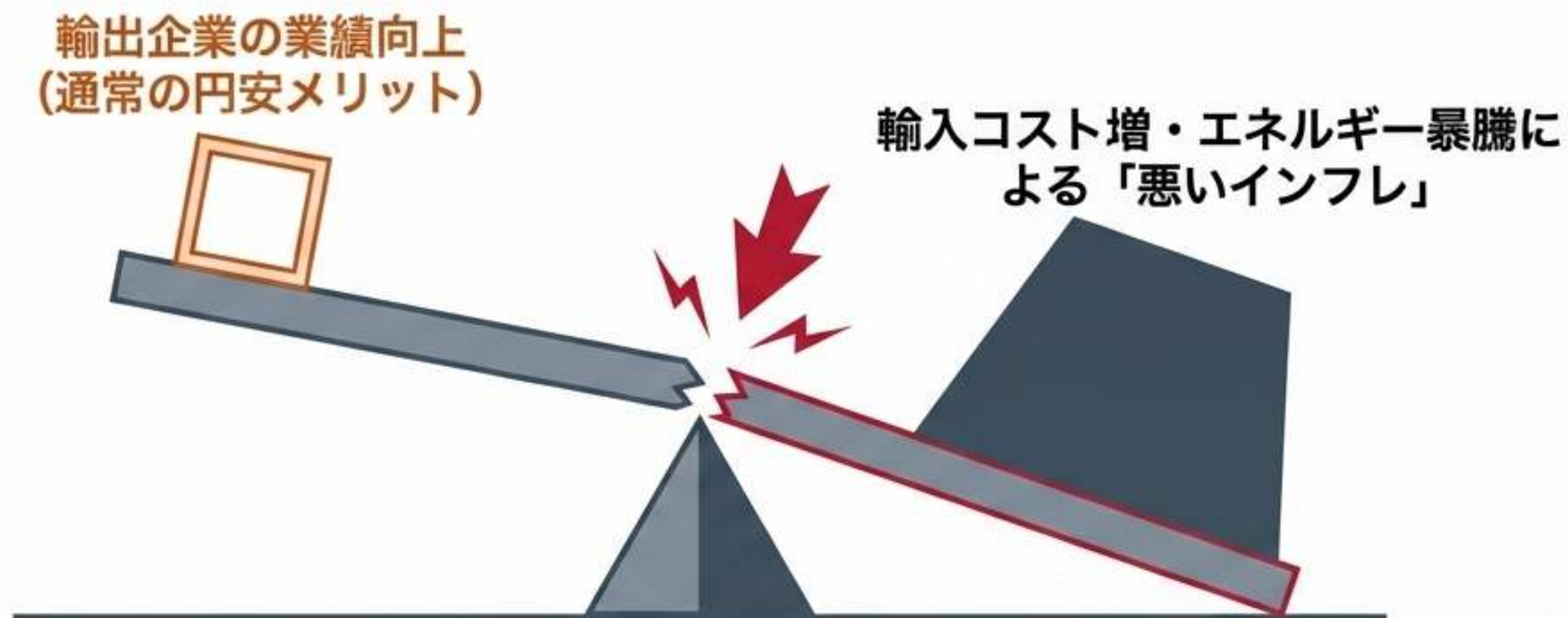
消去法的なドル需要：
地政学リスクによる
『有事のドル買い』

ユーロ円の強烈な引力：
188円を目指す
巨大な上昇エネルギー

ドル円
(USD/JPY)

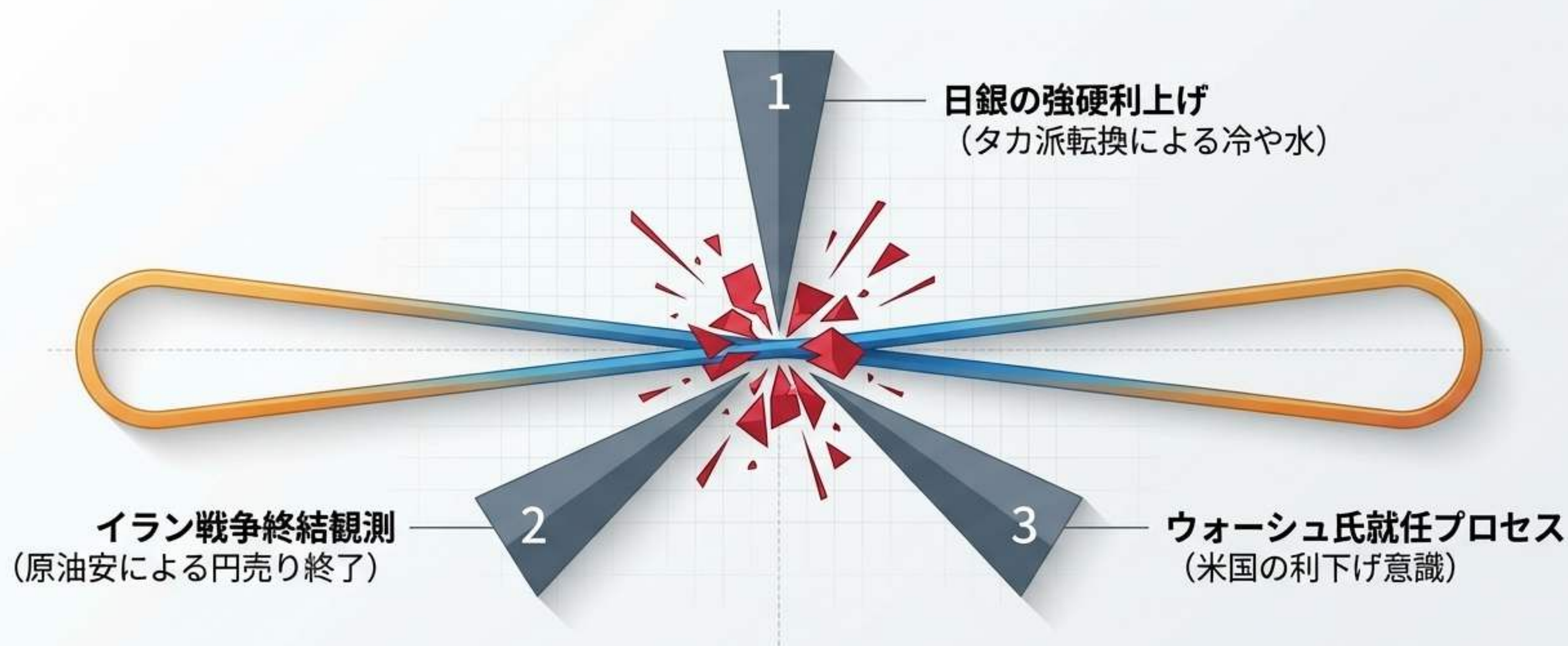
ユーロ円がピークを打つまで、
ドル円は本格的な下落トレンドに入れない。

[WHY] 相場のねじれ：「円安なのに株安」のパラドックス



限界点の突破	結果
日経61,000円 / ユーロ円188円は、デメリットがメリットを完全に上回る限界点。	コストプッシュ・インフレの恐怖により、ナスダックなどの株価指数がリスク回避の本格調整（下落）を起こす。

[SYNTHESIS] ファンダメンタルズの一斉逆転（なぜ同時に落ちるのか）



結論：3つのトリガーが重なる時、ファンダメンタルズはすべて「下」を向き、伸びきったゴムが弾け飛ぶ（円高巻き戻しと株安のシンクロ）

[WHEN] 歴史的転換点へのタイムスケジュール



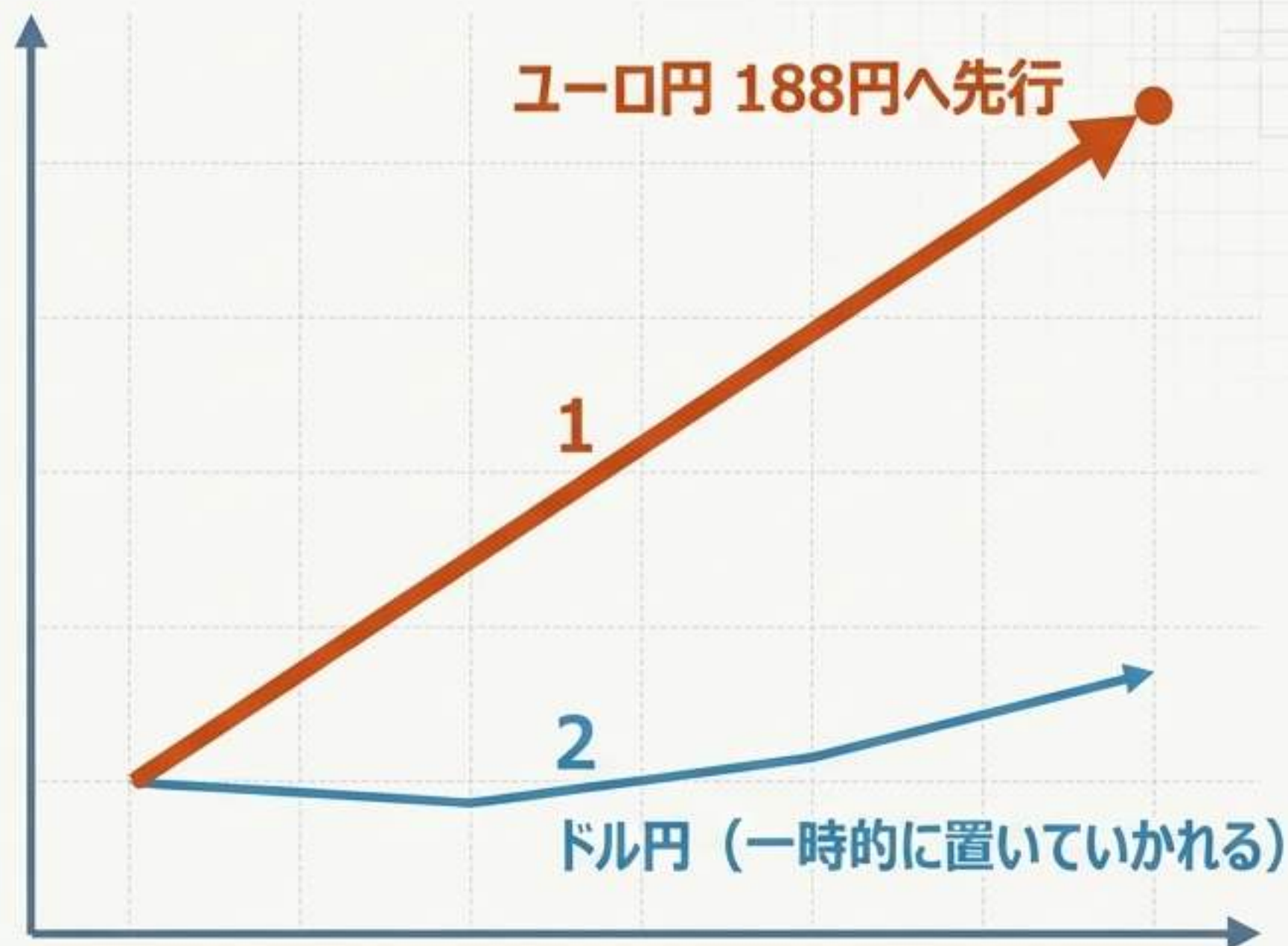
各資産が時間差でターゲットに到達し、月末に一斉反転するシナリオ

Phase 1 : CPI下振れと「ユーロ先行」(4月中旬)

4/15 米CPI発表

週末 米国SQ

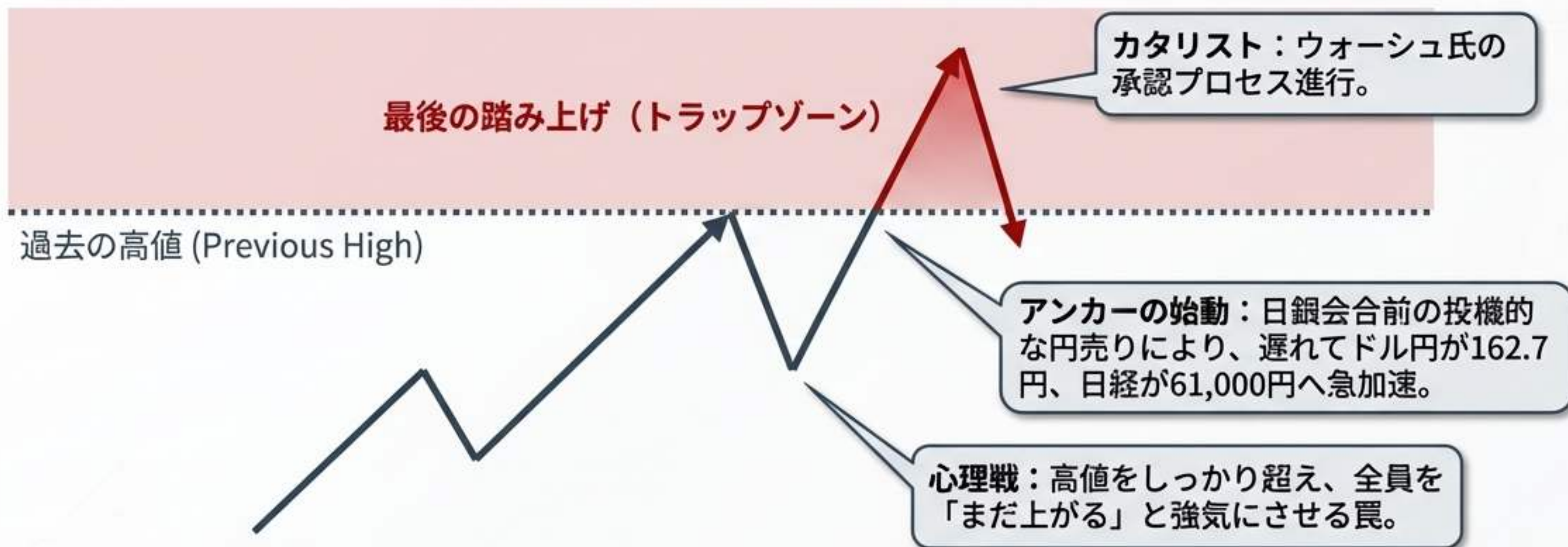
- 米CPI下振れ予想。米金利低下が「株高・ユーロ高」を誘発。
- 米国SQに向け、株価指数（ナスダック等）に上昇バイアス。



焦る必要なし。まずはユーロ円が188円のゴールへ向けて単独で『先行』する燃料となる。

Phase 2 : ドル円の「最後の一撃」と罠 (4月20日~24日)

False Breakout / Bear Trap



【警告】 ここでの「早売り」は厳禁。全ターゲットが同期するのを待つ期間。

Phase 3 : Xデー・日本勢が引導を渡す時 (4月27・28日)



[HOW] エントリー戦略：完璧な売り場を待つ

Rule 1: 分割エントリー（網を張る）



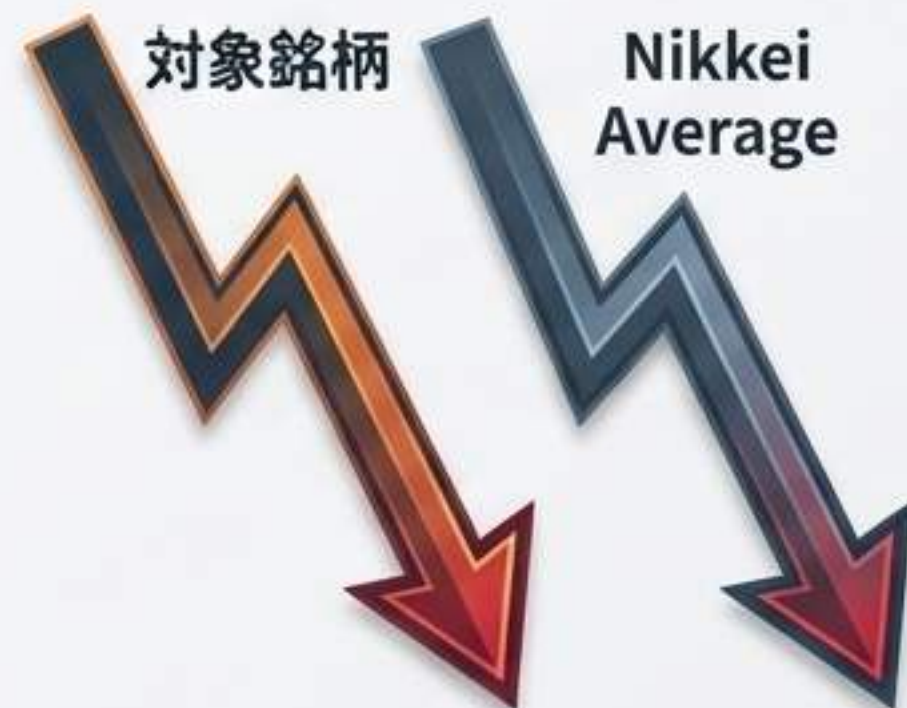
162.7円/188円周辺のノイズを想定し、広く薄く網を張る。一発での全力勝負は厳禁。

Rule 2: 両建て（盾で防ぐ）



上昇の勢いが強すぎる場合は、一時的にリスクを固定（両建て）して反転の瞬間を待つ。

Rule 3: 日経平均とのセット売り



日本勢の売りが始まったのを確認し、迷わず日経平均もセットで空売りを仕掛ける。

[HOW] 出口戦略：どこで利食い、どこで攻めるか

Peak: 162.7円

究極の売り場

第一目標：157.7円～155.4円

Action: 半分利確。欲張らずにここで利益を確保し、リスクを抜く。

防衛線：154.4円割れ

Action: 本格的な追撃売り。相場
の景色が完全に変わるため、残りの
ポジションでトレンドを追う。

[HOW] 守りの3カ条 (損切りとメンタル管理)



機械的なストップは 狩られる

ヒゲ一本で1~2円突き抜ける相場。タイトな損切りは、大口の流動性の餌になるだけ。



「高値切り下げ」で ストップを置く

一発目の突っ込みではなく、一度戻して前の高値を越えられなかったことを確認してからストップを置く。



166円逆行を許容する 極小サイズ

万が一166円まで飛んでも証拠金が耐えられるポジションサイズ。サイズダウンがメンタルを守る最大の武器。

「高値更新に驚かない。 むしろそれを待つのがプロの仕事。」

- 引きつけて売り、節目で利食い、崩れたら追う。
- 焦って早売りせず、全材料が重なる「4月末」まで冷静に牙を研ぐ。